

共生社会推進タウンミーティング 2023 概要

◇日時・場所

〈丹南〉:8/27(日) サンドーム福井

〈奥越〉:8/28(日) 多田記念大野有終会館(結とぴあ)

〈福井〉:9/ 2(土) 福井県生活学習館

〈嶺南〉:9/ 3(日) パレア若狭

参加者総数:100 名

≪主な意見≫

〔丹南〕

- 嶺南にろうの専門職員を配置して欲しい。
- 精神障がい者が支援につながるよう道筋をつけることが重要である。
- 社会参加推進センターの機能をより強化して欲しい。
- ハートフル専用パーキングについて、病気で歩行が困難な場合、6か月ごとに診断書が必要であり、負担が重いので、改善して欲しい。
- ひきこもりについては、不登校は学校の支援があるが、その後の市町との連携が大切である。
- スポーツ協会に理学療法士を入れて欲しい。

〔奥越〕

- E スポーツについて、重度障がい者に対する機器購入や貸出の支援が必要である。また、ボッチャのような重度障がい者向けの競技があると良い。障がい者のEスポーツへの支援が必要である。
- 障がい福祉の人材確保に支援して欲しい。
- 親亡き後の成年後見制度の周知をして欲しい。
- ひきこもりへの訪問支援にかかる人材育成を強化して欲しい。
- 福井県にアクトを作って欲しい。
- コロナ対応に必要な物資の支給をして欲しい。施設により備蓄のあるもの、切れているものがある。
- 同行支援にあたり、自家用車が利用できなくなった。バス等の公共交通機関は運行数が少なく不便である。
- 平均工賃の算出に当たっては、体調等により1日働けない障がい者がいることを考慮して欲しい。
- 給食は、物価高騰の中、工夫しているが赤字である。入所者にとって食事は重要であり、物価高騰等を反映して、補足給付の上限を引き上げて欲しい。
- 福祉教育は、小中高校では、地域を巻き込んで積極的に行われるようになってきたが、その親の世代へのアプローチが難しい。出前講座などにおいて、企業へのアプローチを積極的に行ってもらえると良い。
- 医療的ケア児の家族への支援を強化して欲しい。
- 奥越明成高校の福祉科と施設との交流を増やして欲しい。明成高校は定員割れの状況にある、福祉分野の人材育成に明成高校の魅力アップは重要であり、例えば授業でEスポーツを学んで施設に伝えていくようなことができると良い。

〔福井〕

- B 型事業所は3分の2が社会福祉法人でない法人となっている。これら法人に社会福祉法人同様の税制上の優遇は、考えられないのか。
- 福祉のまちづくり条例が制定されて20年になるが、最低限だけ守ってほしいとの思いがあるのか、バリアフリーをチェックしても行き届かないところがある。条例を最新のものにして欲しい。
- 親が障がいのある子を家から出さないで、パンフレットを作って民生委員に配布してもらうなど、障がいのある人が地域に出てきてもらうための施策をお願いします。
- 障がいのある本人は出たいと思っても親が出さない。その子の特性を表に出して、周りに受け入れてもらうことが大事なことを意識づけしないといけない。
- 80歳過ぎの親と障がいのある子が一緒に施設に入れる富山型を福井にもお願いしたい。
- 医療的ケア児者の日中利用事業所を増やすには、経営面のサポートが必要であり、県の支援をお願いしたい。
- 早急に個別避難計画策定を促進して欲しい。特に呼吸器疾患のない重症心身障がい児。
- 車椅子用駐車場がない時は、車椅子利用者は駐車場を2枠使って停めるしかないことを周知して欲しい。
- 精神科病院を建て替える際は、入院病床数を減らして地域移行関連を多くすべきである。
- SNS、ホームページは便利だが使えない高齢者もいる。指導や研修をすると良い。
- 障がい者週間などを利用してもっと啓発活動をすべきである。
- 福祉避難所や個別避難計画でしっかりと市町を指導して欲しい。

〔嶺南〕

- 法定雇用率について、数年前は新聞で報道されたりして確認できたが、最近は見なくなった。自分が住んでいる町は法定雇用率に達しておらず、最低賃金も上がるので、県からも何らか働きかけをお願いしたい。
- 新幹線開業に向け、敦賀駅が整備され建物も完成し構造的にどうしようもないと思うが、小浜線から新幹線駅までの距離が長く、動く歩道をもう少し長く伸ばしてほしい。運賃も私鉄並みに障害者割引50%として欲しい。
- 視覚障がい者が行事に参加する場合、公共交通機関に頼ることになるが、通勤通学以外の中間の時間帯は午前・午後で各1本ぐらいしかない。本数を増やすなど、もっと利便性を高めてほしい。
- 新幹線の駅を下見したが思うようになっていない。新幹線、並行在来線の駅を出てからの点字ブロック等の整備、敦賀駅の駅裏も併せて整備して欲しい。
- 身体障がい者用駐車場が確保されている施設が少ない。社協なのに確保されていなかったり、スロープが出入り口から離れて設置されていたり、降雪時にスロープ上が雪置き場になっていた。敦賀駅前には身障者駐車場が2台分しか確保されていない。確保されている駐車場でも健康な人が使っていたりして、利用できない。
- 嶺南から月に1回、福井市内の病院に通っている。病院は駐車場が確保されているが、買い物に行ったとき、身体障がい者用駐車場に停めようとしたがいっぱい

で止められなかった。駐車している人を見ると、若くて元気そうな人で、利用証も下げず、小さな車いす用にシールだけ貼って停めていた。こういったことは、一人ひとりのモラルの問題なのではないか。先ほどの動画のように啓発して欲しい。

- 聴覚障がい者が、自家用車運転中に自然災害等に関する情報を取得することができるよう、電光掲示板等での表示をしてほしい。
- 防災訓練について、健常者だけではなく、障がい者も参加して行うべきではないか。

[アンケートより]

- 工賃全国1位の目標は犠牲が多い。そのことで、施設が受け入れず、週1回しかいけない人が多く出ることが危惧される。
- 市町の基幹相談支援センター設置促進等による相談支援体制の充実について、相談支援専門員の人員・人材不足により、サービス等利用計画立案が後手になり、適切なタイミングでサービス利用が難しい場合がある。
- 労働者人口の減少により、農業分野の人材不足だけでなく、他の分野でも生じているため、他分野でもあるとありがたい。
- テレビで、QRコードやホームページを見てくださいと言うことが多いが、見れない人もいる。
- 障がい者手帳所持者が5万人いるが、仲間づくりの団体組織を作り運営していくのが少数になっている。
- 精神障がい者の不調改善について道筋となる環境を整えて欲しい。支援の道は開かれているので、当事者の全体を捉えて弱い部分の関係性を知り、改善して修正されることを考えて欲しい。
- 障がい者別に話し合いの場を設けると良い。
- 身近な精神科の病院は入院が満床状態で、医療スタッフの負担が大きく、建物等も古い。県内精神科病院の実態をもっと知って欲しい。家族は当事者を見ることができなくなっからの不安が一番である。精神障がい者がお世話になる病院や施設が環境の良い所で、良い生活ができることを切に願う。
- 鯖江には精神のグループホームが少なく入所できない人もいる。料金も若干高く感じる。
- 社会参加は勿論、支援センターに通えない精神障がい者は一杯いる。親亡き後にどうなるのか毎日心配である。福井県でそういう人達を把握、データ化して、その人たちの施設を作って欲しい。
- 農福連携を進めて欲しい。事業所の情報や農福連携の情報をホームページで教えて欲しい。事業所のICT活用やDX推進を県で横断的に対応して欲しい。成功のビジネスプランの情報が分かるようにして欲しい。
- 県として、虐待、ひきこもりに積極的に取り組んで欲しい。市町も窓口対応が弱い。実態を把握すべき。
- 福祉を志す若者がいても、賃金の安さから身を引いている。賃金アップしてあげて欲しい。
- 市町で基幹相談を始めとした委託事業が増加しているが、行政職員が理解せず、丸投げしているように感じる。行政も支援の当事者であるという意識をお願い

いしたい。

- 利用者の区分けが少なく、同じ区分でも大きな差がある。利用者1人に対し、職員1人で対応できる方もいれば、1人では困難な方もいる。区分けを細かくすれば、離職や採用面でもプラスになると思う。
- 障がい者でもどんどん外に出て活動する方はたくさんいる。家族のサポートが重要であり、幼少期の家族の対応が大切。子育て世代のサポート、指導を充実することで、障がいがあっても活動的になれる子供が多く育っていく。子供の頃に甘やかされて、大きくなって、やってもらって当然との考えをもって仕事や施設で生活することは困難だし、職員の対応も難しい。改善されれば今後、いろいろな面で取組みが行われやすくなる。
- 障がい者自身は、少しの手助けで自立しようと努力している。変にやりすぎないといった点もアピールしてはどうか。
- 障がい者の移動手段がないとの声が多く、また、新幹線開業で公共交通機関の乗り換えに不安の声が増えていることから、次を要望する。
 - 1 各自治体、複数自治体内を移動する公共交通(列車、バス、タクシー)の本数、台数、運行時間帯の増加分に対する県の支援充実
 - 2 白タクの福祉目的、エリア限定での規制緩和
 - 3 移動効率化による乗り換え時間短縮を目的としたダイヤ改正をする場合、事前に障がい者団体等の声を聞く場の設定
- 親亡き後の障がい者の生活に不安を感じている。グループホームと日中の生活介護の充実をお願いする。
- 福祉人材の確保について、県の最低賃金がアップしたが、福祉職員関係の賃金もすぐにアップできるよう方針を率先して発表して欲しい。
- 福祉施設の人材不足のため、強度行動障がい者を受けたくても受けいれられない。
- 昨夏の国連勧告について、どのように考えているかが反映されておらず、残念です。
- インクルーシブ教育が推進されておらず、分離教育されている。現状解消が必要です。
- 福祉計画にスポーツ芸術の振興はあるが学問学術はない。修学支援を行う公的機関が必要です。
- 共生社会実現プランにおける行動援護の出来る事業所(人員)の増加、育成を早急に検討願う。
- 福井県でも障がい者とその介護の必要な親が顔を合わせて生活できる施設の可能性に向けた取組を早急に進めて頂きたい。
- 日中利用事業所の数値目標は、放課後デイサービスと生活介護を別々に設定した方が良い。
- 重い障害の子の親は今後の介護負担、子の将来の暮らし場所に大きな不安がある。今後の施策で18歳以上の重い障がいの方への支援を強化して欲しい。
- 介護でこの会に出れない人もいる。以前は座布団ミーティングという形でいろんな場所で意見を聞いていた。県の方に現場の生の姿を見て欲しい。
- イベント情報が少ないと思う。コロナも落ち着き障がいのある方も外出を意識している様子なので、参加を促したい。
- 高齢で介護が必要な親と障がいのある子が1つの施設で生活できるシステムを早急に検討して欲しい。
- 行動援護の出来る事業所が少なく、その事業所も人手不足。研修を受けている

- 人が増えても行動援護できる人が少ないので、改善して欲しい。
- 先日、公共のところでこれ以上は車いすは入れないと言われた。県庁内でも庁内事業全体に今一度バリアフリーを周知して欲しい。
 - 医療機関の相談、支援の充実を望む。
 - 障がい者の働く場の確保と、その助成の充実を望む。
 - 相互交流、インクルーシブ教育の推進で、幼児期や小中学校のクラスの中に自然と障がい児がいて、一緒に学び生活を遅れるようになると良い。
 - 人材育成、人材確保は、事業者の努力だけでは限界があるので行政の力が必要。
 - 福祉計画は県民全般にはいきわたっていない。
 - 新幹線、在来線に対するバリアフリー等の説明や要望を聞く会等を早く設けて欲しい。
 - 補助金はICTや新規向けが多いが、建物設備が老朽化し改修が必要だが補助がない。長く貢献している事業所にも対応して欲しい。
 - 強度行動障害者の受け入れ先が決まらない。マンツーマン、個室対応が必要だと運営上人件費等が出ないので対応できないので、補助制度が必要。
 - 福祉避難所が自宅近くになく、あってこ行きにくい。行き慣れた特別支援学校に避難できるようにして欲しい。
 - 海水浴中の津波を難聴者等に伝える津波フラッグを導入していない市町があるが合理的配慮がないと思う。
 - この計画は市町にまで行き届いていない。もっと市町と連携して実のある計画を作成して欲しい。